

# 令和2年度「高校生ステップアップ・プログラム」

## 実施報告書

1 「高校生ステップアップ・プログラム」とは P 1

2 各指定校の取組（14校）

空知	(1) 北海道夕張高等学校	P 2
石狩	(2) 北海道札幌北高等学校（定時制）	P 3
	(3) 北海道札幌琴似工業高等学校（定時制）	P 4
	(4) 北海道札幌白陵高等学校	P 5
	(5) 北海道有朋高等学校（定時制）	P 6
後志	(6) 北海道倶知安農業高等学校	P 7
胆振	(7) 北海道追分高等学校	P 8
	(8) 北海道鶴川高等学校	P 9
日高	(9) 北海道静内高等学校	P 10
渡島	(10) 北海道函館中部高等学校（定時制）	P 11
留萌	(11) 北海道遠別農業高等学校	P 12
オホーツク	(12) 北海道興部高等学校	P 13
十勝	(13) 北海道更別農業高等学校	P 14
釧路	(14) 北海道弟子屈高等学校	P 15

3 高校生ステップアップ・プログラム実施要項 P 16

# 「高校生ステップアップ・プログラム」とは

## 1 趣旨

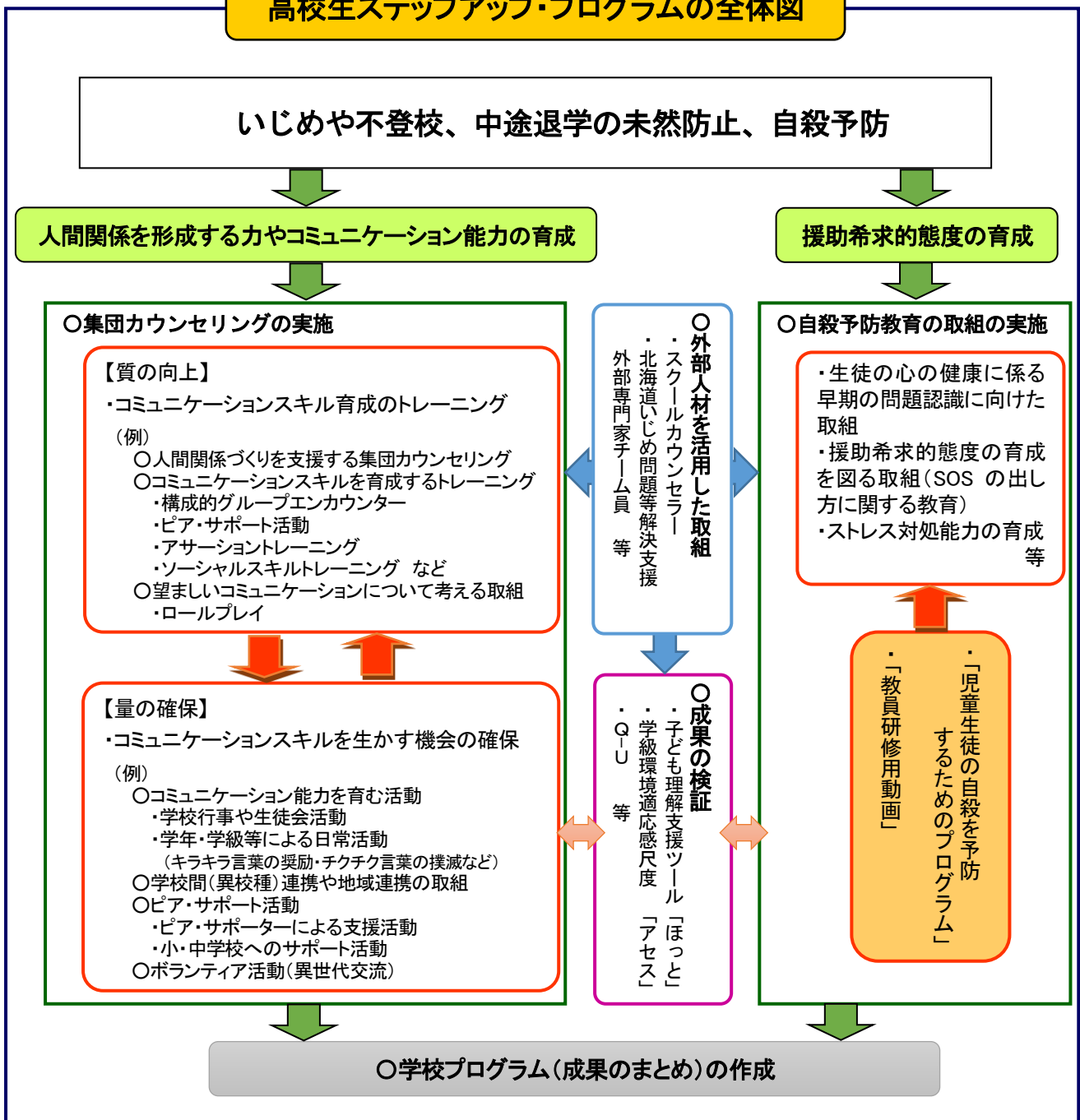
高校生のいじめや不登校、中途退学の背景として、「人間関係をうまく保てない」など、生徒の人間関係を形成する力やコミュニケーション能力の不足によるものもあり、心の不安定さからいじめや不登校、中途退学につながる場合が少なくない。また、本道においても、児童生徒の自殺が少なからず発生しており、北海道学校保健審議会の調査では、自殺や死について考える児童生徒が一定程度いるという結果が出ていることから、児童生徒等の自殺予防に関する正しい知識や援助希求の重要性に関する認識を高める必要がある。

このような状況を改善し、道立高等学校におけるいじめや不登校、中途退学の未然防止、自殺の予防を図るため、予防的・開発的な視点に基づく生徒の人間関係を形成する力やコミュニケーション能力の育成を図る取組（以下、「集団カウンセリング」という。）や、自殺予防教育プログラムを活用した取組を実践するとともに全道の高等学校への普及を図る。

## 2 事業内容

- (1) 集団カウンセリングの実施
- (2) 自殺予防教育の取組の実施
- (3) 外部人材を活用した取組の実施
- (4) 成果の検証
- (5) 学校プログラムの作成

### 高校生ステップアップ・プログラムの全体図



# 北海道夕張高等学校

課程：全日制  
学科：普通科  
生徒数：65名

## 本校の目指す生徒像

- ・心豊かな生徒
- ・知性を磨く生徒
- ・主体的に行動する生徒

## 本校の現状

小・中・高と固定化した人間関係の中で生活してきたため、新たな環境の変化等に適応できず、他者と良い関係を築くことができない生徒が見られる。

## 本校の取組の特徴

- 1 スクールカウンセラーによる集団及び個別カウンセリング
- 2 ほっと及びhyper-QUの結果等を生かした教育相談

## 取組の内容

### ○ 人間関係を形成する力やコミュニケーション能力の育成を図る取組

#### 1 スクールカウンセラーによる集団及び個別カウンセリング

〈集団カウンセリング〉

LHRにおいて、全生徒を対象として学年別を実施した。コミュニケーション能力の育成だけではなく、自己肯定感を高めるとともに援助希求的態度の育成を目指した。

(例)

- ・ 1学年「こころについて話すこと」※ZOOM（絵本）を使った体験活動  
生徒からは「人に分かりやすく自分の気持ちを伝え、相手のことを理解しようとするのが大切だと思った」等の感想が上げられた。
- ・ 2学年「感情（怒り）のコントロール」  
生徒からは「自分がどういうときに怒るのかを知ることができた」「怒ったとき、どう解決したら良いか学ぶことができた」等の感想が上げられた。
- ・ 3学年「他者の話に耳を傾けることと自分について語ること」※体験活動  
生徒からは「自分の話を聴いてくれる人がいてくれることが安心感につながる」等の感想が上げられた。

〈個別カウンセリング〉

放課後、希望した生徒を対象に実施した。実施後、教員はスクールカウンセラーから生徒への対応について助言をいただき、適切な支援について校内委員会で検討し、対応した。

#### 2 ほっと及びhyper-QUの結果等を生かした教育相談

年2回、昼休みや放課後の時間、全学年の生徒を対象に教員による面談を実施した。ほっと等の結果から把握した生徒個人や学級集団における特徴を面談に生かすことができるよう、各学年所属の教員を中心に情報を共有した。特に、hyper-QUについては、スクールカウンセラーによる校内研修を実施し、分析方法や活用方法について理解を深めた。

## 取組の成果等

### ○ 成果

集団カウンセリングの実施により、生徒がより良い人間関係を築くためのヒントを得て、日常生活における自身の言動や考え方を見直す機会をつくることができた。

### ○ 課題

個別カウンセリングは、一部の生徒への実施になっているため、より多くの生徒が悩み等について相談できる環境を整える必要がある。

### ○ 次年度に向けて

スクールカウンセラーによる授業の見学や休み時間における交流等を計画し、生徒がスクールカウンセラーと自然に関わることができる機会を増やす。また、個別カウンセリングの意義等について、生徒向けの便りや掲示物により積極的に情報を提供する。

# 北海道札幌北高等学校

課程：定時制  
学科：普通科  
生徒数：159名

## 本校の目指す生徒像

- ・自ら考え判断することができる生徒
- ・多様性を尊重し社会性をもった生徒
- ・自ら未来を切り拓くことができる生徒

## 本校の現状

- ・コミュニケーション能力と社会性の育成が必要
- ・心の健康教育の充実に向けた校内環境の整備が必要
- ・特別支援教育に関する教職員のスキルアップが必要

## 本校の取組の特徴

1. スクールカウンセラー等を活用した生徒のコミュニケーション能力と社会性の育成
2. 自殺予防教育プログラムの活用
3. 外部人材を活用した教職員のスキルアップ

## 取組の内容

### 1. スクールカウンセラー等を活用した生徒のコミュニケーション能力と社会性の育成

- ・人間関係を形成する力やコミュニケーション能力の育成を図る取組として、6月11日、生徒のコミュニケーションスキル向上のための講座を実施した。
- ・年間を通じてスクールカウンセラーによる個別のカウンセリングを実施した。

### 2. 自殺予防教育プログラムの活用

- ・自殺予防教育の取組を実施した。
  - (1) カウンセラーによる講話「望ましい人間関係の確立について」
  - (2) 心身の発達と心の健康（保健体育「ストレス対処能力」）
  - (3) カウンセラーによる講座「生徒と教師が共にコミュニケーション能力を高めるために」
  - (4) ソーシャルスキルトレーニング「援助希求的態度の育成」
  - (5) プレーンストーミング「ストレス対処能力及び援助希求的態度の育成」
  - (6) カウンセラーによる事例研修会「心の教育」

### 3. 外部人材を活用した教職員のスキルアップ

- ・北海道札幌稲穂高等支援学校の教員やいじめ問題等解決支援外部専門家チームによる特別な配慮を必要とする生徒への理解及び対応に係る教員研修を実施し、教職員のスキルアップを図った。

## 取組の成果等

### ○ 成果

- ・スクールカウンセラー等による生徒のコミュニケーション能力の育成を図る取組を行ったことにより、生徒は、人間関係を形成する力を身に付けることの重要性を理解した。
- ・外部人材を活用した教職員のスキルアップを行ったことや「ほっと」の結果を検証することにより、全職員が共通理解のもと教育相談等で生徒と関わり、生徒は落ち着きを保ち、不登校生徒や中途退学者の減少につながっていると考えられる。

### ○ 課題

- ・教職員の合理的配慮の実践が不十分であることから、スキルアップを図るための研修が必要である。

### ○ 次年度に向けて

- ・特別な配慮を必要とする生徒への対応に関する校内研修を計画的に実施し、職員全体で組織的に対応する。

# 北海道札幌琴似工業高等学校

課程：定時制  
学科：工業科  
生徒数：92名

## 本校の目指す生徒像

- ・自立するための基礎・基本を身に付けた生徒(知識・技能)
- ・社会の変化に対応する資質と能力を身に付けた生徒  
(知識・技能)
- ・常に学習目標を掲げ、挑戦し努力できる生徒  
(思考力・判断力・表現力等)
- ・コミュニケーション力を身に付けた生徒  
(思考力・判断力・表現力等)
- ・主体的に学び、意欲的に取り組む生徒  
(学びに向かう力・人間性の涵養)
- ・進路実現を目指して努力できる生徒  
(学びに向かう力・人間性の涵養)

## 本校の現状

- ・生徒自身の自己肯定感の醸成が必要
- ・生徒に対して社会性を身に付けさせる指導が必要
- ・教職員のスキルアップと教育支援検討委員会の在り方について研修(特別な教育的支援や教育相談的支援)が必要

## 本校の取組の特徴

1. 集団カウンセリングによるコミュニケーション能力の育成
2. 自殺予防教育プログラムの活用
3. 外部人材を活用した教職員のスキルアップ

## 取組の内容

### 1. 集団カウンセリングによるコミュニケーション能力の育成

- ・スクールカウンセラーによる「こころの授業～コミュニケーションのコツ」では、タイプ別や様々なシチュエーションによるコミュニケーションについての講義・演習を行った。

### 2. 自殺予防教育プログラムの活用

- ・スクールカウンセラーによる「こころの授業～命の危機・『自殺』を防ぐために～」では、「命」の大切さや自殺を防ぐための考え方についての講義・演習を行った。

### 3. 外部人材を活用した教職員のスキルアップ

- ・北海道いじめ問題等対策支援外部専門家チームによる教員研修を行い、生徒理解・保護者理解について学んだ。

## 取組の成果等

### ○ 成果

- ・集団カウンセリングや自殺予防教育プログラムの活用により、生徒はコミュニケーションを図る際のコツや命の大切さを学び、思いやりをもった行動を通して良好な人間関係を築くことができるようになった。
- ・教員研修により、特別な配慮を必要とする生徒への支援や教育相談的支援に関するスキルアップを図ることができた。

### ○ 課題

- ・「カフェスタイルのカウンセリング」を実施する予定であったが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から実施できず、実施方法について検討する必要がある。

### ○ 次年度に向けて

- ・「カフェスタイルのカウンセリング」について、大人との対話・交流、卒業生との対話・交流、学年や学科の枠組みを越えた交流等を十分な感染防止対策を図りながら実施したい。

# 北海道札幌白陵高等学校

課程：全日制  
学科：普通科  
生徒数：374名

## 本校の目指す生徒像

- ・自分の良さを伸ばせる生徒
- ・規範意識や思いやりのある生徒
- ・目標に向かって努力する生徒

## 本校の現状

- ・コミュニケーション能力が低く、うまく対人関係を築くことのできない生徒が見られる
- ・基本的生活習慣が身に付いていない生徒が見られる

## 本校の取組の特徴

1. 外部講師を活用した「命」の大切さの講話による自己理解及び他者理解の充実
2. スクールカウンセラーによる個別カウンセリングの実施

## 取組の内容

### 1. 外部講師を活用した「命」の大切さの講話による自己理解及び他者理解の充実

- ・「北海道交通事故被害者の会」の会員の方を講師とし、交通事故で家族を失った経験から、決して相手を傷つけることなく自ら安全な行動をしてほしいという内容の講演を通じて、生徒は、自他の「命」の大切さについて理解を深めることができた。

#### 【生徒の感想】

- 自分で自分の命を絶つということは絶対になくさなければならないと思った。
- 「命」の大切さについてこれまであまり考えたことがなかったが、遺された人の悲しみの大きさを知り、命がどれだけ大切かを実感することができた。
- 一瞬の出来事が自分の人生を大きく変えてしまう事故の恐ろしさを実感した。



### 2. スクールカウンセラーによる個別カウンセリングの実施

- ・スクールカウンセラーによる個別カウンセリングの機会を増やし、生徒が抱える悩みに対するきめ細かなカウンセリングの対応を参考にして、教職員が生徒理解の深化に努めた。

## 取組の成果等

### ○ 成果

- ・命を考える教育講演会の開催を通して、「命」の大切さに係る意識を深めるとともに、他者への思いやりの心の育成を図ることができた。

### ○ 課題

- ・基本的生活習慣が身に付いていない生徒が見られるため、学校だけでなく、保護者や地域と連携しながら教育を進められるよう、各種講演会など本校の取組を保護者や地域の方にも案内し、参加を促す必要がある。
- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、講師を招聘できず中止となった講演会があった。

### ○ 次年度に向けて

- ・保護者や地域の方にも講演会に参加してもらい、学校の教育活動を支えてもらえるよう、生徒の現状を見極め、学校や地域の実態に合った講演の検討を行う。

## 北海道有朋高等学校

課程：定時制  
学科：普通科・事務情報科  
生徒数：198名

### 本校の目指す生徒像（生徒指標）

- ・自ら伸ばせ 輝かせ
- ・心豊かに 気品あれ
- ・進取で強く しなやかに

### 本校の現状

- ・多くの悩みを抱え、不登校傾向のある生徒に対して、校内委員会と各年次がスクールカウンセラーと連携して支援している

### 本校の取組の特徴

- 1 スクールカウンセラーによる個別カウンセリングの充実
- 2 石狩管内専門家チーム巡回相談の積極的な活用
- 3 北海道医療大学心理科学部臨床心理学科の学生によるピア・サポート活動及び学習支援

## 取組の内容

### 1. スクールカウンセラーによる個別カウンセリングの充実

- ・生徒のみならず、保護者や関係教員に対しても生徒との関わりに係るカウンセリングを実施した。

### 2. 石狩管内専門家チームによる巡回相談の積極的な活用

- ・石狩管内専門家チームによる巡回相談を活用し、年次会において生徒理解のスキルについて指導や助言を受けた。

### 3. 北海道医療大学心理科学部臨床心理学科の学生によるピア・サポート活動及び学習支援

- ・学生によるピア・サポート活動の実施を通して、人間関係を構築する力を身に付けることを目的に毎年実施してきたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止した。

## 取組の成果等

### ○ 成果

- ・スクールカウンセラーによる個別カウンセリングの実施により、適切な支援を受け、学校生活をより一層意欲的に送ることができるようになり、不登校生徒や中途退学者が減少した。
- ・外部の専門家からの助言を受け、校内委員会を中心に個に応じた支援を立案し、実行していくことで、生徒に寄り添った指導が実を結び、欠席者数や保健室利用者が減少した。

### ○ 課題

- ・多様な課題を抱えた生徒やその保護者、全ての相談希望に応えるためには、十分な時間の確保が必要なことから、校内の教育相談体制の充実を図る必要がある。

### ○ 次年度に向けて

- ・スクールカウンセラーとの計画的な面談を通して、生徒が安心して登校できる環境の整備を推進する。
- ・専門家による校内研修を定期的で開催し、学校全体の生徒理解のスキル向上に努める。

# 北海道倶知安農業高等学校

課程：全日制  
学科：生産科学科  
生徒数：68名

## 本校の目指す生徒像

- ・次代の農業や産業を切り拓く知識・技能を培い、将来、地域社会や国際社会に貢献できる生徒

## 本校の現状

- ・基礎学力の定着がなされていない生徒や、適切な自己評価ができていない生徒が見られる。

## 本校の取組の特徴

1. スクールカウンセラーによる自殺予防講話の実施
2. スクールカウンセラーによる個別カウンセリングの実施

## 取組の内容

### ○ スクールカウンセラーによる支援と自殺予防教育の取組

#### 1. スクールカウンセラーによる自殺予防講話の実施

「いのちとこころを考える - コロナとこころの危機 - 」

- ・ 1 学年対象、2 時間で実施。
- ・ 援助希求的態度の育成や SOS を出せるようになることについての理解を深めることや、生徒同士で支え合えるよう「傾聴」の技術を身に付け、人間関係を構築することについて講話をいただいた。



#### 【生徒の感想】

- ・話を聞いてもらうときに、うなずいたりしてくれるとすごく話しやすかった。
- ・話をすることで少し楽になるということがわかった気がする。

#### 2. スクールカウンセラーによる個別カウンセリングの実施

- ・希望者や保護者からの意向、担任がカウンセリングの必要性を感じた生徒を中心に実施。スクールカウンセラーの来校（月2程度）に合わせて対象生徒を決め、カウンセリングを行い、カウンセリング後は、担任・養護教諭・コーディネーターとカウンセラーで情報共有を図るとともに、必要に応じて全教職員にも情報共有を図った。

## 取組の成果等

### ○ 成果

- ・講話に関して、本校で行っている思春期教室や保健・家庭科の授業と関連付けることで命の大切さ、苦しいときに一人で抱え込まないということの理解を深めることができた。（生徒同士で悩みを相談し合う場面も見られた。）
- ・『傾聴』の姿勢を学んだことで、授業等、話を聞く姿勢について望ましい変化が見られた。
- ・スクールカウンセラーの個別カウンセリング実施により、生徒が適切な支援を受けることで、学校生活を充実させるができた。

### ○ 課題

- ・スクールカウンセラーとのカウンセリングを希望する生徒が増えた場合に、カウンセリングのための時間の確保とスクールカウンセラーの勤務時間調整などが必要である。

### ○ 次年度に向けて

- ・今年度実施の講話を継続的に行い、全学年の生徒が、自殺予防に係る知識、理解を深めるようにする。
- ・1 学年を中心に「ほっと」、「ほっとプラス」の活用を継続し、生徒理解に生かしていく。



# 北海道追分高等学校

課程：全日制  
 学科：普通科  
 生徒数：73名

## 本校の目指す生徒像

- ・ 主体的・協働的に責任をもって行動する生徒
- ・ 健全な意志と身体をもち、実践力のある生徒
- ・ 豊かな個性をもち思いやりのある生徒

## 本校の現状

生徒の自己肯定感の向上及びコミュニケーション能力育成のための継続的な取組が必要である。

## 本校の取組の特徴

- 1 生徒サポート委員会が中心となり、個々の生徒に対応した支援を充実させている。(スクールカウンセラーや特別支援教育パートナーティーチャー、スーパーバイザーによる助言と支援)
- 2 教科指導を通して、発表力及びコミュニケーション能力を育成する。(異年齢交流やボランティア活動)
- 3 自殺予防教育プログラムの実施により、生徒に自殺予防について正しい知識を身に付けさせ、援助希求的態度及びストレスに対処する能力を育成する。(集団カウンセリングの実施)

## 取組の内容

### ○ スクールカウンセラーによる支援

#### 1 継続した個別面談

個別面談を継続することにより、気持ちの整理の方法や事象への対応など、援助希求的態度や自己決定力を育てる支援を継続することができた。(面談件数：延べ34件)

#### 2 学年別集団カウンセリング

科目「保健」において、自殺予防教育プログラムとしてスクールカウンセラーが「心の健康とストレス対応」などについて講演した。自身と他者との違いや人間関係で悩んだ際の相談方法等、演習を含めて実施した。(1、2年生2時間・3年生1時間の実施)

「生徒の感想」

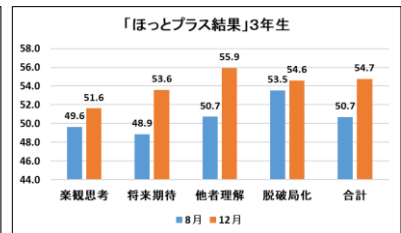
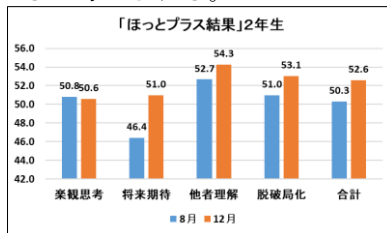
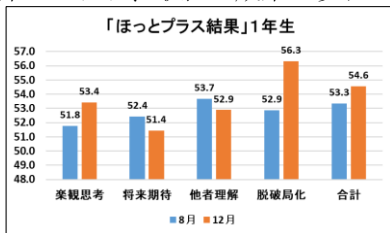
- ・ 悩んでいる人、困っている人に対して、どのような話し方をするかについて学んだ。声掛けの効果について、大変勉強になった。今までNGフレーズを使っていた。(1年生)
- ・ アサーティブという言葉を知った。これから意識していきたいと思った。(2年生)
- ・ 学校を卒業してしまうとカウンセラーの人がいなくなってしまうので、自分がなぜストレスを作ってしまうのか、また、ストレスの対処法等を詳しく知ることができてよかったと思った。(3年生)



## 取組の成果等

### ○ 成果

スクールカウンセラーによる個別面談の継続と心の健康やストレス対処についての学年別集団カウンセリングを実施したことにより、実施前より「ほっとプラス」の「結果の考え直す力」の総合得点が全学年で上昇した。特に、3年生については、「楽観思考」「将来期待」「他者理解」「脱破局化」の4項目及び「ほっと」の結果の「関係維持」「仲間強化」「自己統制」「援助要請」4項目全てが上昇しており、取組の成果が現れていると考えられる。



### ○ 課題

「ほっと」の結果を見ると、1年生ではソーシャルスキル尺度得点は偏差値50を超えているが、12月と7月を比較すると、「自己統制」(衝動性を抑え良識に基づく意志決定を行う力)の低下が目立った。2年生では「援助要請」(身近な人に相談したり悩みを打ち明ける力)が低下した。

### ○ 次年度に向けて

1年生については「自己統制」の力、2年生については「援助要請」の力を伸ばす働きかけが必要であることから、スクールカウンセラーによる支援の継続とともに、教科指導の中でソーシャルスキルトレーニング等の人間関係づくりを促進する授業づくりを継続する。

# 北海道鷗川高等学校

課程：全日制  
学科：普通科  
生徒数：134名

## 本校の目指す生徒像

一人ひとりの個性を伸ばし、明るく豊かでたくましい人間を育成する。(学校教育目標)

## 本校の現状

「対人関係が苦手」「精神的に不安定」「不登校」等、学校生活に不安を抱える生徒が見られる。

## 本校の取組の特徴

- ・「コミュニケーションスキルアップトレーニング（CST）」の取組  
生徒サポート委員会を中心に、コミュニケーションスキル向上のためのトレーニングや人間関係づくりを支援する集団カウンセリング、外部講師による講演や授業などの取組を継続的に実施している。
- ・充実した教育相談活動  
教育相談担当教員の取りまとめの下、スクールカウンセラーによる個別カウンセリング、担任や学年団、養護教諭による日常的な面談、全校生徒対象の教育相談を実施している。

## 取組の内容

### ○ 人間関係を形成する力やコミュニケーション能力の育成を図る取組

#### 1 自殺予防教育の取組

- ・6月の臨時休業明けすぐに、自殺予防の観点からCSTを実施し、1年生及び2年生は人間関係づくりに、3年生は伝え方に重点を置いた内容とした。
- ・11月、12月には絵本セラピーを実施し、不登校などの未然防止や自分の感情や考えを表現したり、他者の感情や考えを受け入れたりすることをねらいとした。

#### 2 スクールカウンセラーによる支援

- ・毎月1回、スクールカウンセラーによる個別の教育相談を実施した。(1月31日現在で延べ19名)
- ・6月の臨時休業明けすぐに、宿泊研修において集団カウンセリングなどを実施した。1年生は入学後すぐに臨時休校となったため、クラスの人間関係づくりを中心に実施した。
- ・8月に各学年でCSTを実施した。1年生は【傾聴】、2年生は【アサーティブな考え方】、3年生は【自己主張】をテーマにして実施した。
- ・11月に、教職員向けに校内研修を実施し、生徒との関わり方や教育相談に活用した。

#### 3 生徒の状況調査

- ・「ほっと」、「ほっとプラス」を実施した。

## 取組の成果等

### ○ 成果

授業内容の改善等を通して、コミュニケーションについての意識が変化している生徒が増えた。生徒が回答した学校評価アンケート結果の「学校生活を通じて身に付いている項目」で、約70%の生徒が「コミュニケーション能力」と回答した。また、CST実施後、自主的に教育相談を申し出る生徒が増えた。

### ○ 課題

本校生徒は学校生活に不安を抱える生徒が多く、そのため人間関係のトラブルが多い。今後は、人間関係を形成する力やコミュニケーション能力の育成を更に進めるため、全教職員の一層の連携が必要である。

### ○ 次年度に向けて

次年度も、継続して実施する。特に、校内研修の機会を活用し、データの活用やデータを比較した中でどのような変化が生じたかなどを教職員間で共有し、クラスや部活動などでの生徒理解に活かしていく。

# 北海道静内高等学校

課程：全日制  
 学科：普通科  
 生徒数：470名

## 本校の目指す生徒像

「10の力」を身に付けた生徒  
 ※自己肯定力、行動力、創造力、表現力、郷土愛、自己管理力、思考力、言語力、分析力、道徳心

## 本校の現状

目的意識をもって説明すること(表現力)や行動すること(行動力)、生活すること(自己管理力)の質問項目に対する自己評価が低い生徒が見られる。

## 本校の取組の特徴

1. 生徒理解ツール等の調査結果を踏まえ、生徒の実態を把握し、特別活動等における指導の成果の分析を通してマネジメント・サイクルを意識してより一層の指導の工夫・改善を図る。
2. 専門家の助言を踏まえてコミュニケーションスキル育成のトレーニングを行う。

## 取組の内容

### 人間関係を形成する力やコミュニケーション能力の育成を図る取組

#### ○校内研修の充実

生徒の実態を把握及び指導成果を正確に分析するため、各種調査結果の分析方法等について本校の保健環境部部長を講師として校内研修を行い、全教職員の共通理解を図った。また、「アセス」の結果及び分析を踏まえ、教育相談週間をつくり、教育相談の機会の充実を図り、生徒の良好な人間関係形成をはたらきかけた。



#### ○自殺予防教育の取組

北海商科大学の大友秀人氏(道教育相談スーパーバイザー)を外部講師として、援助希求の態度及びストレス対処能力の育成に係る研修や「ほっとプラス」の結果及び分析の研修を行った。この研修を踏まえ、「保健」や2年次「総合的な探究の時間」において、心の健康に関する探究的な学習を行った。授業後、生徒にアンケートを実施したところ、「自分が悩んでいたら、『誰かに相談したい』と思いました。自分が思うということは他の人も思うはず。寄り添い、話を聞いたり、力になってあげようと思います。」「人は一人では生きていけないと思うから、助け合いが大切だと強く思いました。」などの感想が見られ、人との関わりやコミュニケーションの大切さについて、学ぶ良い機会となった。



## 取組の成果等

#### ○ 成果

- ・各種調査結果の分析方法について全教職員の共通理解を得ることができ、一人一人の生徒の調査結果について教職員間の意見交流を行い、多面的に分析できるようになった。また、教職員が、一人一人の生徒の課題について組織的に指導するなどの対応の改善が見られた。
- ・生徒が悩みを相談しやすい環境が整備され、昨年度と比べ、30日以上、20日以上、10日以上の各欠席生徒数が減少した。

#### ○ 課題

- ・令和2年度は、臨時休業等により、1年次生徒を対象としたコミュニケーションスキルの育成トレーニングを実施できなかったことから、前年度までと比べ、人間関係を構築することに対する不安感・苦手意識をもつ生徒の割合が高かった。そのため、次年度以降も継続的にコミュニケーションスキルを学ぶ機会の充実を図る必要がある。

#### ○ 次年度に向けて

- ・スクールカウンセラーの助言を踏まえ、コミュニケーションスキル育成のトレーニング方法を改善することで充実を図り、「アセス」「ほっとプラス」の分析結果を教員間で共有する機会を設け、組織的に生徒の人間関係構築についての指導を行う。指導体制づくりを図る。

# 北海道函館中部高等学校

課程：定時制  
 学科：普通科  
 生徒数：51名

## 本校の目指す生徒像

- 1 自分に自信をもち、仲間と協力して主体的に取り組む生徒
- 2 社会に飛び出す勇気と力をもつ生徒

## 本校の現状

- ・過年度卒の入学者や転編入・復学の生徒がおり、様々な生活環境や生育歴の生徒が在籍している。
- ・人間関係づくりに課題がある。

## 本校の取組の特徴

- 1 スクールカウンセラーによるグループワークを実施することにより、人間関係を形成する能力やコミュニケーション能力を育成
- 2 学校環境適応感尺度「アセス」の個人データの結果を踏まえて、学校生活における悩みや不満の早期発見・早期解決及び、教員と生徒の信頼関係の構築を目的とする教育相談を年2回実施
- 3 長期休業前後を含め年に複数回、自殺予防プログラムを実施

## 取組の内容

### ○ スクールカウンセラーを活用した生徒の人間関係を形成する力とコミュニケーション能力の育成

- 1 対象：1学年（18名） 講師：北海道教育大学函館校准教授 本田真大 氏
- 2 活動内容：以下の表のとおり。基本的に3人グループで活動する。
- 3 感染対策：グループの配置は、間隔を空けた弓なりの形態とした。基本的に会話などを行わない活動とした。また、道具を共有した活動の後には、手洗いや道具等の消毒を行った。

実施日	活動内容	ねらい
5月26日	色を使って自己紹介	学校の先生を理解する。
5月29日	ちぎり絵	相手のことを分かろうとする。
6月8日	絵の作成と鑑賞	相手のことを分かろうとする。
6月15日	図の中から漢字を探す・作る	考え方を柔軟にする。自分にはない発想に気付く。
6月22日	ストレス対処法に関する自己理解	自分のストレスの対処法を知る。
6月29日	シール貼り絵	相手のことを分かろうとする。
7月20日	文字で言葉を作る	考え方を柔軟にする。自分にはない発想に気付く。
11月9日	言葉で上手く伝えよう（図形編）	非言語と言語の重要性を体験する。
11月16日	言葉で上手く伝えよう（折り紙編）	非言語と言語の重要性を体験する。

### ○ 自殺予防教育

- 1 対象：1学年（18名）、2学年（14名）
- 2 活動内容：援助希求の態度の育成（1学年、6月、7月（2回）、8月（2回）、9月（2回）で実施）、早期の問題認識（心の健康）及びストレス対処能力の育成（2学年、9月（4回）、10月（4回）で実施）

### ○ アセスメント

- 1 対象・実施：全学年で、6月、12月（2回）で実施
- 2 内容：子ども理解支援ツール「ほっと」、「ほっとプラス」、学校環境適応感尺度「アセス」、1学年は「楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-U」も実施

## 取組の成果等

### ○ 成果

コロナ禍におけるグループワークの在り方を検討しながら実施した。本年度の活動を通して非言語の活動でも十分に他者理解ができることがわかった。また「ほっと」の結果の比較において、「礼儀」、「表明」、「参加」、「拒否」、「忠告」、「学業」の数値に向上が見られた。特に「学業」が大幅に伸びるなど、学習のための望ましい行動を身に付けることができた。また、複数のアセスメントの実施により多角的・客観的に生徒個人及び集団を捉え、生徒を支援することができた。

### ○ 課題

「ほっと」の結果の比較において、「緊張」、「配慮」、「称赞」の数値が低下した。特に「配慮」が大幅に低下したことから、相手への配慮や親切、援助の力を身に付けさせる内容を計画・実施する必要がある。

### ○ 次年度に向けて

コロナ禍でもできるグループワークの実施を検討し、継続する。特に、非言語の活動を取り入れながら、人間関係形成能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

## 北海道遠別農業高等学校

課程：全日制  
学科：生産科学科  
生徒数：67名

### 本校の目指す生徒像

社会の変化に対応し、自ら学び他者と協力して試行錯誤しながら問題を解決できる。

### 本校の現状

- ・寮があり、全道から生徒が集まっている。
- ・困り感を抱える生徒が見られる。
- ・人間関係でのトラブルが見られる。

### 本校の取組の特徴

- ・生徒同士の人間関係の円滑な構築に向け、教育面談を通して生徒情報を学校全体で共有化
- ・人間関係を形成する力の育成を目的とし、学年の進行に応じたホームルーム等における居場所づくり及び学校全体でのいじめ防止集会の実施

## 取組の内容

### ○ 人間関係を形成する力やコミュニケーション能力の育成を図る取組

#### 1 自他理解を深める構成的グループエンカウターの実施

共感的な人間関係を構築することを目的とし、スクールカウンセラーを講師に迎え、各学年における人間関係及びいじめについて生徒の自己理解を深めるとともに、メタ認知のトレーニングを用いて相手の立場になって他者理解するための構成的グループエンカウターを実施（写真1）した。活動した1年生からは「自分と他者の考えが違うことを学んだ」「あまり話したことがない同級生と交流することができた」などの声が聞かれた。



（写真1）メタ認知のトレーニング

#### 2 全校生徒で取り組むいじめ防止集会の実施

生徒会が中心に、全校生徒で「いじめは絶対に許されない」という認識のもと、いじめ防止集会を実施した。全校生徒でいじめを防止するための具体的な考え方や行動について、3学年混合のグループごとに協議（写真2）を行い、その後、生徒会でまとめた協議内容を行動指針として1枚のパネルにまとめて校内に掲示した。協議した生徒からは「相手が不快に思う言動や仲間はずれにすることがいじめにつながると感じた」「お互いの思い違いで人間関係が崩れることがあるので、コミュニケーションを取ることが大切だと感じた」などの意見が聞かれた。



（写真2）3学年混合で協議する様子

## 取組の成果等

### ○ 成果

構成的グループエンカウター及びいじめ防止集会の実施により、生徒は物事を客観的に考えることの大切さを学ぶとともに、相手を思いやる気持ちを身に付け、今後の学校生活での人間関係を形成する力を育成することができた。

### ○ 課題

コミュニケーションが苦手な生徒や人間関係に困り感を抱える生徒に対して、予防的・開発的な教育相談を踏まえた支援を継続し、生徒間のトラブルを早期に発見・解決する必要がある。

### ○ 次年度に向けて

専門機関と連携し、生徒に対してメンタルヘルスを維持する方法の紹介及びソーシャルスキルトレーニング等を継続して行い、生徒のコミュニケーション能力が充実するような取組を進める。

# 北海道興部高等学校

課程：全日制  
学科：普通科  
生徒数：48名

## 本校の目指す生徒像

地域理解を進める広い視野と豊かな知識をもち、地域貢献に努めるとともに、目標実現に向けて不屈の精神と健やかな身体をもつ生徒

## 本校の現状

温和しく素直な生徒が多い一方で、学業や人間関係の面などで不安を抱えている生徒も見られることから、コミュニケーション能力の育成が課題である。

## 本校の取組の特徴

1. 人間関係を形成する力やコミュニケーション能力育成のためのプログラムの重点的な実施
2. 外部人材を活用した集団カウンセリング・講演会の実施

## 取組の内容

### ○ 人間関係を形成する力やコミュニケーション能力の育成を図る取組

#### 1. 集団カウンセリングにおける外部人材の活用

人間関係を形成する力を育成するために、多くの機会を設定し様々な人材によるカウンセリングや講演が役立った。本校では、スクールカウンセラーによる「ココロとカラダ 自分を大切にする」をテーマとした集団カウンセリングや、昨年度に引き続き、今年度も株式会社ゆめかなの石川尚子様を講師として「自分の人生、自分しだい 幸せに生きるための発想法」をテーマとした講演会を実施した。

生徒一人一人が自分の人生を幸せに生きるために今後どのように行動するかを意識する契機となった。

#### 2. コミュニケーショントレーニングにおける外部人材の活用

地域を支える11名の方に来校していただき「興部町民と語ろう」を実施した。町民と様々な話題を通じ、語り合うことで、本校生徒のコミュニケーション能力の向上に資する取組となった。生徒は、実際に様々な仕事をされている大人との会話を通じて、勤労観を養うと同時に、未知の考え方に触れるなど、生徒の思考力を活用する場とすることができた。



## 取組の成果等

### ○ 成果

複数の方々からコミュニケーショントレーニングや集団カウンセリングを受けることで、生徒の視野を広げ多様な価値観の育成を図ることができた。また、相手の立場に立ったコミュニケーションを取るように考えようになり、少しずつではあるがよりよい人間関係を構築することができるようになった。

また、教員も研修を通じ、多様な指導法を学び実践することで、生徒理解を深め、教育相談や進路指導に生かすことができた。

### ○ 課題

今年度、実施した取組について効果があったか客観的に分析し、次年度の計画を作成する必要がある。また、多様な外部人材の活用を図るため、コーディネーターを活用するなど、あらゆる情報を収集し、校内外で調整を図りながら、取組の趣旨についても教職員間で十分協議していく必要がある。

### ○ 次年度に向けて

ステップアップ・プログラムを3カ年実施し、一定の成果をあげ、区切りをつけることができた。次年度以降は、この成果をもとに教員の共通理解のもと、さまざまな方々（スクールカウンセラー、保健師、地域住民など）と交流を深めながら、生徒の多面的なものの見方やコミュニケーション能力を育成していきたい。

# 北海道更別農業高等学校

課程：全日制  
学科：農業科、生活科学科  
生徒数：116名

## 本校の目指す生徒像

- ・規範意識をもち自分や相手を大切にできる生徒
- ・主体的に学ぶことができる生徒
- ・学科の専門性を生かし地域社会に貢献できる生徒

## 本校の現状

- ・生徒のコミュニケーション能力と社会性の育成が必要である。
- ・人間関係の構築が苦手な生徒が見られ、ストレスへの適切な対応の仕方や発散方法について知識が不足している状況がある。

## 本校の取組の特徴

1. スクールカウンセラーによる個別カウンセリングの充実
2. 教育相談担当教員、特別支援担当教員が中心となり、全校生徒を対象にした担任及び学年団による日常的な個別面談の実施

## 取組の内容

### ○ スクールカウンセラーによる支援

#### 1. スクールカウンセラーによる個別カウンセリングの充実

特別な支援を要する生徒、担任がカウンセリングの必要性を感じた生徒及び希望者を対象に、カウンセラーによるカウンセリングを実施した。また、必要に応じて、その保護者にも参加を呼びかけ、生徒は、生活全般に関する適切な助言を受けることができた。

また、カウンセリングの内容に関して、校内において教員間で情報共有をする時間を確保した。その結果、日常生活で困り感を抱える生徒に対する、様々な場面での教員の声かけが可能となった。

#### 2. 教育相談担当教員、特別支援担当教員が中心となり、全校生徒を対象にした担任及び学年団による日常的な個別面談の実施

全校生徒を対象に、学習や進路、対人関係などに関する不安等を把握するための教育相談を実施した。教育相談の内容をまとめ、全職員で情報共有を図った。この教育相談に合わせて、子ども理解支援ツール「ほっと」を実施し、個々の特性を踏まえた深い生徒理解につなげることができた。

また、カウンセラー以外にも下記に示す外部人材を活用して、コミュニケーション能力の育成や自己理解の深化に資する取組を生徒に提供することができた。

- ・Office フォージェミネット代表 高橋 好志子氏「今の自分、これからの自分」
- ・更別村国民健康保険診療所所長 山田 康介氏「『生』や『死』について」



## 取組の成果等

### ○ 成果

スクールカウンセラーによる専門的な立場からの助言や提案を踏まえ、個々の生徒の状況について教員間で情報共有ができ、生徒や保護者への適切な対応に結び付けることができた。

### ○ 課題

より深い生徒理解を実現するために、教員のカウンセリング能力の改善・向上のための研修が必要である。

### ○ 次年度に向けて

本年度実施した取組を継続するとともに、子ども理解支援ツール「ほっと」を複数回実施し、より効果的なカウンセリングのポイントに関する校内研修等を企画・実施する。

## 北海道弟子屈高等学校

課程：全日制  
学科：普通科  
生徒数：77名

### 本校の目指す生徒像

- ・郷土を愛するとともに、たくましく未来を切り拓いていこうとする生徒
- ・自ら学ぶ意欲をもち、目標に向かって挑戦し続けようとする生徒
- ・自他の生命を尊重し、互いに思いやり、高めあおうとする生徒

### 本校の現状

- ・気持ちが優しく素直で物事に一生懸命取り組む生徒が多い反面、自己肯定感が低く、ストレス耐性の低い生徒も見られる。
- ・不登校や人間関係での困難さを抱え入学してくる生徒が見られる。

### 本校の取組の特徴

- ・生徒の情報交換及びサポートについて検討を行うため、教育相談委員会を定期的に開催
- ・スクールカウンセラーによる個別カウンセリング（生徒・保護者）、全教職員による全校生徒を対象とした教育相談活動の実施
- ・スクールカウンセラーによる心の教育、集団カウンセリング（各学年）の実施

## 取組の内容

### ○ 人間関係を形成する力やコミュニケーション能力の育成を図る取組

スクールカウンセラーによる心の教育、集団カウンセリング（各学年）を実施しており、今年度は、北海道医療大学准教授 今井 常晶氏を講師に「心理学からみたストレス解消法」というテーマで「ストレスマネジメント」や「相談すること」について講演いただいた。生徒からは「ストレスサーやストレスマネジメントを知ることは、これからの自分の心身に、ためになると思う」等の感想があった。



### ○ スクールカウンセラーによる支援

今年度は2名のSCによる支援体制を組み、生徒や保護者、教職員を対象に個別のカウンセリングを実施した。生徒の様子について情報を整理し、今後のサポート体制について話し合い、SCからの助言を受けた。また、「よく眠れない」「身体の疲れがとれにくい」など身体の緊張に起因すると考えられる諸症状が見られる生徒を対象に、リラクゼーションを実施した。生徒からは「からだの力を抜くことが難しい」「1度では覚えられないので、また受けたい。」等の感想があった。

## 取組の成果等

### ○ 成果

- ・本プログラムにより、生徒は「相談すること」に対する抵抗感が少なくなっている様子が伺えた。
- ・ICT活用事業により実施した校内研修では、本校における生徒の実態や諸課題等について事前に調査及び分析を実施した上で、北海道医療大学教授 富家 直明氏より講話をいただき、課題解決や今後の対応について再確認することができた。

### ○ 課題

- ・チェックリストの結果から過覚醒反応の生徒が複数見られたため、自分自身との上手な付き合い方やストレスマネジメントについての取組が必要である。

### ○ 次年度に向けて

- ・少人数でのリレーションづくり、「援助要請」、「仲間強化」等コミュニケーションに関する取組を教育活動の中に組み込んでいく。



## 高校生ステップアップ・プログラム実施要項

(平成25年5月17日学校教育局長決定)

(平成28年5月20日一部改正)

(平成30年4月6日一部改正)

(平成31年4月19日一部改正)

(令和2年4月10日一部改正)

### 1 趣旨

高校生のいじめや不登校、中途退学の背景として、「人間関係をうまく保てない」など、生徒の人間関係を形成する力やコミュニケーション能力の不足によるものもあり、心の不安定さからいじめや不登校、中途退学につながる場合が少なくない。また、本道においても、児童生徒の自殺が少なからず発生しており、北海道学校保健審議会の調査では、自殺や死について考える児童生徒が一定程度いるという結果が出ていることから、児童生徒等の自殺予防に関する正しい知識や援助希求の重要性に関する認識を高める必要がある。

このような状況を改善し、道立高等学校におけるいじめや不登校、中途退学の未然防止、自殺の予防を図るため、予防的・開発的な視点に基づく生徒の人間関係を形成する力やコミュニケーション能力の育成を図る取組（以下、「集団カウンセリング」という。）や、自殺予防教育プログラムを活用した取組を実践するとともに全道の高等学校への普及を図る。

### 2 事業の実施主体

北海道教育委員会（以下「委員会」という。）は、文部科学省の委託を受けて事業を実施する。

### 3 事業の内容

#### (1) 高等学校の取組

##### ア 集団カウンセリングの実施

実施校は、生徒の人間関係を形成する力やコミュニケーション能力の育成を図るため、計画的に集団カウンセリングを実施する。

##### イ 自殺予防教育の取組の実施

実施校は、「自殺予防教育プログラム」を積極的に活用し、計画的に自殺予防教育の取組を実施する。

##### ウ 外部人材を活用した取組の実施

###### (ア) スクールカウンセラーによる支援

実施校は、生徒への集団カウンセリングやアセスメントの実施及び本事業の実施のための指導助言、教員研修等に、積極的にスクールカウンセラーを活用する。

ただし、スクールカウンセラーの活用時間数については予算の範囲内とする。

###### (イ) 北海道いじめ問題等解決支援外部専門家チーム員（以下「支援チーム員」という。）の活用

実施校は、生徒指導上の諸課題の解決に向けた取組の教員研修等に、積極的に支援チーム員を活用する。

##### エ 成果の検証

実施校は、本プログラムの成果を、次の(ア)から(オ)の項目により検証する。

###### (ア) 子ども理解支援ツール「ほっと」等を用いた客観的な指標に基づく評価

実施校は、「ほっと」等による調査を複数回実施し、上記ア、イに掲げる取組の成果を検証する。

###### (イ) 不登校生徒数及び中途退学者数、いじめの認知件数及び解消率の変化

###### (ウ) その他の生徒の状況

- ・上記ア、イの取組における生徒の感想
- ・上記ア、イの取組における生徒の活動状況の観察

###### (エ) 外部人材の活用状況

###### (オ) 本プログラムに対する教員の理解や取組状況

##### オ 学校プログラム（成果のまとめ）の作成

実施校は、上記ア～エの実施状況、成果や課題を踏まえ、他校の参考となるよう、実施時

期や内容、参考資料等を取りまとめた学校プログラム（成果のまとめ）を作成する。

## (2) 委員会の取組

### ア 運営協議会の開催

委員会は、本プログラムの円滑な実施に資するため、実施校の職員、スクールカウンセラー、所管教育局高等学校教育指導班担当指導主事等の参加を得て運営協議会を開催する。

### イ 集団カウンセリング研修会の開催

委員会は、実施校における取組の充実を図るため、実施校の教員等を対象に集団カウンセリング研修会を開催する。

### ウ 取組状況の広報

委員会は、全道立高等学校における不登校や中途退学の未然防止、自殺予防の取組の充実に関与するため、本プログラムの取組状況の広報に努める。

### エ 北海道教育カウンセリングICT活用事業による支援

委員会は、スクールカウンセラーの継続的な派遣が困難な地域に対し、音声と映像の双方向情報通信技術を活用した北海道教育カウンセリングICT活用事業により支援する。

ただし、実施校数には限りがあること。

## 4 事業実施に当たっての留意事項

(1) 実施校は、事業終了後においても、学校独自でプログラムを継続的に実施することを想定した計画の策定及び検証を行うこと。

(2) 実施校は、スクールカウンセラーによる予防的・開発的教育相談の手法や集団カウンセリング、アセスメントに関する教員研修を実施し、知識や手法の習得の他、本プログラムに関する教員間の共通理解を深めること。

(3) 高校1年生に重点を置いて本プログラムを実施する場合は、宿泊研修において、仲間づくり支援やコミュニケーションスキルを育成する集団カウンセリングを実施すること。

また、国立・道立青少年教育施設において宿泊研修を実施する場合は、当該施設職員と連携し、集団カウンセリングを実施すること。

(4) スクールカウンセラーによる生徒への集団カウンセリングや教員研修は貴重な機会であることから、実施校は支障のない範囲内で、近隣校と連携して実施してよいこと。

(5) スクールカウンセラーの活用については、次の事項に留意すること。

ア スクールカウンセラーの人材確保については、実施校が行うこと。ただし、必要に応じて委員会が協力すること。

イ 予防的・開発的教育相談の手法は多様であることから、必要に応じて複数のスクールカウンセラーを活用してよいこと。

ウ スクールカウンセラーの任用、報酬等の支給事務等については、「北海道公立学校スクールカウンセラー（非常勤）設置要綱」（令和2年3月31日学校教育局長決定）によること。

(6) 支援チーム員の派遣については、「北海道いじめ問題等解決支援外部専門家チーム実施要項（令和2年3月31日学校教育局長一部改正）」によること。

## 5 実施期間

原則として1か年とする。

ただし、1年を超えて継続の希望がある場合は、取組状況や事業成果等に基づき委員会が継続を決定する。

## 6 事業の実施手続

(1) 事業の実施を希望する道立高等学校は、実施計画書（別記様式1）及び所要経費計画書（別記様式2）を添付し、委員会に申請する。

(2) 委員会は、上記(1)により提出された実施計画書等の内容を審査し、実施校を決定する。

(3) 実施校は、実施計画書等の内容を変更する場合は、速やかに委員会に報告し、その指示を受けること。

## 7 事業の報告

(1) 実施校は、実施報告書及び所要経費報告書を作成し、当該年度の2月末日までに、委員会に提出すること。

(2) 支出関係書類については、他の経費と区分して適当な帳簿を用いて整理し、用途を明らかにするものとし、事業を実施した翌年度から5年間保存すること。

## 8 その他

(1) 委員会は、必要に応じ、事業の実施状況及び経理状況等について実態調査を行うこと。

(2) この要項に定めのないものは、委員会及び実施校が協議の上、決定すること。

### 附 則

この要項は、平成25年5月17日から施行する。

この要項は、平成28年5月20日から施行する。

この要項は、平成30年4月6日から施行する。

この要項は、平成31年4月19日から施行する。

この要項は、令和2年4月10日から施行する。